

■児童・生徒の学力の状況

- 授業に意欲的で、よく発言する生徒が多い。
- チャイム着席及び授業規律は、概ねできている。
- 基礎・基本の学力が、概ね身に付いている生徒が多い。
- 極端に学力不振の生徒もいる。
- 提出物や宿題が、期限内に間に合わない生徒が若干いる。
- 個々の意見を発表する力が乏しい。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 「本時のねらい」を見える形で提示し、ねらいが達成できたかを生徒自身でふりかえる時間を授業内に設定する必要がある。
- 学力向上につながる課題（提出物・宿題等）を設定し、期限内に提出する習慣づけを行う必要がある。
- 各教科の授業においてINPUTしたことを用いて、小集団でのTHINKの時間を設定し、OUTPUTを意識したまめにつなげる学習時間を確保する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 問題解決型・探究型の授業を重視すると共に、主体的に取り組ませるための協働学習や少人数授業などを充実させる。
- 「板橋区授業スタンダード」を基盤とした授業革新に取り組み、「主体的・対話的で深い学び」につながる質の高い授業を行う。
- 予想される超スマート社会(Society5.0)を生き抜くために「読み解く力」を育成し、学力の定着・向上を図る。
- ICT機器を活用し、より興味・関心を引きつける授業、より分かる授業を展開するとともに、一人一台端末を活用し、生徒の学習意欲を高める。
- 学習意欲を高め、学習習慣を確立するために、人間的な触れ合いと規律ある授業を推進する。
- 学力向上専門員の活用により、授業や補充教室及び学力向上推進週間等における学習指導を充実させる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○全ての授業において学習語彙の確認を適宜行うことを意識し、読み解く力の6分類を意識しながら発問やふり返し等の指示の出し方を工夫する。 ○INPUT・THINK・OUTPUTの流れを確実に定着させ、生徒に主体的なOUTPUTをさせる時間を授業内に設定する。	○3年間の見直しをもった総合的な学習の時間の目標を設定し、学校生活全般を通して生徒の探究する意欲を引き出す為に、クロスカリキュラムの視点を取り入れ、全ての教員が指導にあたる。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○各学年において区内巡り・都内巡り・里山体験・修学旅行等の行事に向けて、身近な地域や日本の他の地域を地理的・歴史的に学び実際に足を運ぶことを通し理解を深め多角的に学ぶことで、郷土愛を育成していく。 ○学びのエリア桜川学園において共通の研修テーマを設定し、学びのエリアにおいて育てたい児童・生徒像を明確にしている。	○「主体的に課題を発見し、解決に導く力」「協働して課題解決に取り組む力」「失敗を恐れずチャレンジする力」の育成に向け、総合的な学習の時間の探究課題に対する生徒の見方・考え方を支える各教科の知識・技能、思考・判断・表現等を横断的・効果的に発揮することができるよう、全教員間で指導の方向性を確認し、各教科の授業においても身につけるべき力を意識した授業を展開する。	○全学級でICT機器を効果的に活用し、重要な部分を拡大して提示したり生徒の考えや作品の共有化を図る。 ○学習ソフト「ミライシード」「オクリンク」や「ムーブノート」を活用し話し合いの内容を共有したり、作品等を発表し合ったりする。 ○学習ソフト「ミライシード」「ドリルパーク」を活用し、復習や宿題、自主学習の教材として活用する。 ○不登校生徒対応として授業配信のためにICTを活用する。